

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所  
士別市東7条9丁目  
Tel0165-22-3100  
fax0165-23-4356

# 集落対策で地域守る

## 占冠村(占冠、中央、双珠別)、幌加内町(母子里)でモデル事業

### 急激な過疎進行

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、北海道の総人口は2010年の550万人から2040年には419万人となり、65歳以上の人口の割合は4割を超えると発表されました。

市町村別で見ると、179全ての市町村で人口が減少

少し、地方ほど人口減少率・高齢化率とも高くなる傾向です。

このような状況を受け北海道は、平成23年度道内3757集落を対象とした「北海道集落実態調査」を実施。集落の現状や集落機能の状況などを分析してきました。その結果、集落人口が少ないほど、高齢化率が高いほど、集落機能が低下している実態が明らかになり、これらの地域では、生活交通、買い物支援、高齢者支援、移住・定住、地



焼肉で懇談を深めた道政報告「青空の集い」(8月10日)

域コミュニティ、産業・担い手、空き家対策などの視点での対策が必要との結論となりました。

### モデル事業展開

北海道では、今年度から

区分	基幹産業別モデル <b>占冠村</b> 占冠・中央・双珠別地区	高齢化別モデル <b>幌加内町</b> 母子里地区	再編統合別モデル <b>深川市</b> 納内地区
地域協議会の設置	占冠ふるさと活性化推進委員会(5/31設置)	幌加内地区地域づくり協議会(6/27設置)	納内地域集落対策協議会(6/17設置)
集落の状況分析	T型集落点検 北海学園大学と連携	聞き取り調査 旭川大学との連携	アンケート調査 町内会と連携し道が実施

2年間の事業として、道内3ヶ所で集落総合対策モデル事業(別表のとおり)を実施することとしており、基幹産業別モデルとして占冠村の占冠・中央・双珠別地区、高齢化別モデルとして幌加内町の母子里地区が選定されました。

これらの地域では、地域協議会を設置する中で、集落点検や地域住民のアンケート調査結果を踏まえ地域住民との意見交換会等を実施し、大学等とも連携し集落の将来像や具体的な取り組みを検討することとしており、これらの結果を道内市町村に発信し、集落対策に生かすことにしています。また、北海道では、今年度の事業として「北海道集落総合支援事業」を展開し、集落の必要性などの醸成や調査研究・情報発信、集落を支える人材の発掘や育成を図るなど、地域の主体性に基づく集落対策の取り組みを総合的に支援することとしています。

### 第3回定例道議会報告(9月10日~10月4日)

第3回定例道議会は、9月10日開会。平成25年度北海道補正予算、「JR北海道の安全対策強化と安全運行を求める意見書」、「介護保険法改正に伴う地方財政負担の回避とサービス格差を生じさせないことを求める意見書」などを可決し、10月4日(金)閉会しました。

#### 機能不全の国会

夏の参議院選以降、国政においては、国会での委員



北海道農連及びJA中央会と農業政策意見交換(9月19日)

会審議すらほとんど行われない中で、消費税引き上げ、社会保障制度改革、TPP、安全保障、原発・エネルギー政策、新年度の国費予算編成等の様々な重要課題が首相周辺のみ判断で動かされるといふ異様な状況が生じています。

#### 秘密交渉のTPP

TPPについては道は、担当職員を交渉開催地に派遣し続けているものの参加国で結んだ「保秘契約」が壁となり、交渉の状況は明らかとなっていない。それにもかかわらず、早期の合意との日程ばかりが強調されています。内容が明らかにならない中では道民合意、国民合意はありえないとして、知事に強い反対姿勢を求める論議を展開しましたが、知事は、「引き続き国情報提供と説明を求め、本道経済や道民生活に影響が

生じることのないよう求めていく」との従来同様の答弁に終始しました。

国民・道民の生活や地方自治体の行財政運営に大きな影響を与えかねない課題が山積しているにもかかわらず、道の姿勢は、国の動向待ちであり、国に要望するとする主体性に欠けたものでした。

また、定例会の会期中に、JR北海道で線路の整備が長年放置されていたことが発覚。事故や不祥事が相次ぐ同社について、道民の安全性確保、輸送力確保の観点からの議論を展開しました。さらに、HACについても、JALの再子会社化の検討が行われていることが明らかになり、これに関する質疑も行われました。

#### 依然厳しい道財政

平成25年度の補正予算は、道投資単独事業費43億円など一般会計128億6百万円、特別会計1億4百万円。これで、25年度北海道予算

第3回定例会で可決された補正予算

単位：千円

	一般会計	特別会計	合計
既決予算額	2,696,826,705	586,990,682	3,283,817,387
今回補正額	12,806,738	104,624	12,911,362
合計	2,709,633,443	587,095,306	3,296,728,749

は、一般会計2兆7096億円、特別会計5871億円の合計3兆2967億円となりました。

また、平成24年度の一般会計決算は、形式収支で17億1700万円、実質収支で2億1100万円となり、かるうじて黒字となったものの、地方公共団体財政健全化法に基づく健全化判断比率は、実質公債費比率が21.7%、将来負担比率が328.6%と、依然とし

て厳しい状況です。

#### 採択された決議・意見書

JR北海道の安全対策強化と安全運行を求める意見書 東京電力福島第一原子力発電所の放射能汚染水に対する韓国政府の水産物輸入規制措置に関する意見書 特定秘密の保護に関する法律案の制度検討に当たつての意見書 海獣類の保護管理対策に関する意見書 ホテル・旅館等大規模建築物の耐震化の促進に関する意見書 行政不服審査法に係る不服審査手続の代理権の付与を求める意見書 寡婦(夫)控除を全てのひとり親家庭に適用することを求める意見書 高齢者の就労支援施策等を担うシルバ人材センターに関する意見書 アルコール健康障害等の総合的な対策等を推進する基本法の制定を求める意見書 北方領土問題の解決促進等に関する意見書 私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書 森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する意見書 介護保険法改正に伴う地方財政負担の回避とサービス格差を生じさせないことを求める意見書



写真で振り返る北口道議の活動記録(7月~9月)



土別まつり祓奉仕(7月15日)



きたごりんファームでの除草作業(7月13日)



全上川農連宗谷線ブロック協議会例会(8月9日)



反核平和の火リレー到着集会(7月26日)



幌加内町新そば祭り(8月30日)



林正博氏旭日中綬章受章を祝う会(8月11日)



牧野勇司土別市長再選(9月1日)



中村博占冠村長再選(8月20日)



「土別にコラッセ夏学校」  
開校式(7月22日)  
黒岳登山(9月22日)





# 北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kiaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(7月～9月分)

## 7月25日【戦没者追悼式& TPP集会&復興講演会】

今日は忙しい一日であった。戦没者追悼式とTPP集会、復興講演会と忙しさと充実の一日でもあった。朝一で札幌に移動し、北海道戦没者追悼式に参列。遺族の皆さんとともに、永遠の平和を願い、戦没者に哀悼の意を表し献花をさせていただいた。JA北海道中央会主催



小雨の中のTPP反対集会に参加

の「TPP交渉参加に抗議し北海道を守り抜く総決起大会」は、中島公園野外広場に、約7千名が集結して開催された。あいにくの小雨模様であったが、参加した皆さんの熱気で雨も上がり、TPPから即刻撤退するよう確認した。士別市と士別市政経懇話会「ひびな会」が共催して開催された絆講演会「川内村帰村への決意」について、福島県川内村の遠藤雄幸村長から「震災から2年半、復興に向けて」と題した講演をいただいた。遠藤村長の講演の中で、「物的な復興も大切であるが、心の復興をどう果たしていくかが課題だ。根拠のある期限を切り、村民が夢や希望を叶えられるように、行政として復興を目指すことが大事だ」とお話しいただき、復興のご苦労も再認識した。

### 8月2日【民主党議員会、予算要望】

平成26年度国費予算編成に向けての提言・要望について、北海道



民主党国会議員に要請行動

議会民主党議員会役員として、参加行動してきた。今回の内容は、地方財政の充実・強化について、TPPについて、エネルギー政策について、交通政策について、などを提言・要望してきた。民主党北海道選出国会議員会は、小川勝也参議を会長に、徳永工リ参議を事務局長に選出。その他、荒井聰衆議、横路孝弘衆議、相原久美子参議がそれぞれ参加し、私たちの提案・要望内容について意見交換させていただいた。それぞれの議員からは、「自民党政権では、社会保障費と地方財源が削減される懸念がある、地方からもしつ

かりとした声をあげて欲しい」「TPPは、農業分野だけではない。医療や雇用も大きな影響を受ける。そことしっかり連携して欲しい」などの意見が出された(後略)。

### 9月28日【富良野地区連合会懇談会】

民主党北海道総支部連合会(横路孝弘代表)の常任幹事会に出席。その後、富良野地区連合会(本田寛康会長)の懇談ビールパーティーに参加してきた。冒頭、本田会長は、「一人でも多くの組合員に参加していただけるように土曜日に設定したが、土曜日でも仕事が忙しく参加できない組合員がいる。この



富良野連合会懇談会で挨拶

時期、バスやJRの組合員は大変だ。特にJRは今問題になっているが、現場の組合員は一生懸命やっている。我々は、そのことを信じようではないか」と挨拶された。その後、雇用問題や社会補償制度について意見交換し、懇談を深めさせていただいた。

### 【ひとりごと】

TPP交渉が山場になった。10月6日、西川公也自民党TPP対策委員長は、「聖域」として関税維持を求めてきた農産物の重要5品目について、「関税撤廃できるかどうかを党内で検討すること」を明らかにした。自民党は昨年未の衆院選で、「聖域なき関税撤廃を前提にする限り交渉参加に反対」との公約を掲げ、重要5品目を守ると約束した。関税撤廃検討は、こうした公約を反故(ほご)にするものだ。TPP交渉参加を表明した3月15日にも安倍総理は、「政権公約、国民との約束は必ず守る」と約束した。政権公約、国民との約束とはどのようなものだろうか。そんなに簡単なものだろうか。一政治家として、「約束は守る」と思っただが、(ゆうこう)